

### 【災害対策委員会講師派遣事業】

湘南西部ブロック勉強会（地域リハビリテーション勉強会）

「災害時リハビリテーション支援活動の実践例」の講師を担当いたしました。

今回は湘南西部ブロック ブロック長の安藤岳彦さまからの研修会報告レポートを下記に転載いたします。また、会場の手配・調整から当日の運営を引き受けてくださいました「りんどうデイサービスセンター国府」のスタッフの皆さまも本当にありがとうございました。

### 【湘南西部ブロック勉強会(地域リハビリテーション勉強会)】

「災害時リハビリテーション支援活動の実践例」を開催しました。

湘南西部ブロック ブロック長 安藤 岳彦

平成 29 年 4 月 27 日、りんどうデイサービスセンター国府にて湘南西部ブロック勉強会として、地域リハビリテーション勉強会「災害時リハビリテーション支援活動の実践例」を開催しました。

災害時リハビリテーション支援活動については、これまで東日本大震災、熊本地震における現地での活動や本会災害対策委員会、JRAT の組織的な取り組み、そしていわゆる被災地の当時の状況や復興期としての現在の活動を取り上げてきました。

しかし、アンケートを取るとまだまだ「災害時においてリハビリテーション専門職に求められる役割がイメージできない」という回答が多くみられました。

また、そもそも「大災害に遭う」ということや「どう備えるべきか」についても、なかなかイメージできないのが現状でした。

よって、今回は改めて「災害時リハビリテーション支援活動」の実践例を取り上げ、さらに災害や災害対策を身近に感じるために「災害時のトイレ」についても取り上げていただきました。

今すぐできる対策は、ご自宅や職場の「危険なところ」を考え、「(相対的に)安全なところ」を認識し、可能な範囲で対応することだと思います。

また、ご家族との連絡手段を持っていると、大きな安心材料となります。そして、何についても「非常用携帯トイレ」を家族分、最低 3 日分は用意しておくことを推奨します。

以下、勉強会後のアンケートからの一部抜粋です。

- ・リハ専門職がどのように災害と関わっているのかイメージができていなかったが、いろいろと関われる部分があることを知れて良かった。
- ・JRATのことを初めて聞き、リハ専門職も災害時に関われることを知りました。
- ・災害と普段のリハがかけ離れているのではないかと思っていたが、災害時のリハも日常の業務の延長にあるものだと思えることができ良かった。
- ・大地震が起きた場合、今回の講義内容を参考にして積極的に支援していきたいと思います。
- ・日々の臨床以上に他職種連携が重要になること、日ごろからの業務、関係づくりから考え直す必要があることが理解できた。
- ・公衆衛生対応に関する内容に非常に興味をひかれました。
- ・映像を見るまでは実感がわかなかったが、災害時のトイレが重要なことが分かった。
- ・自分たちの職場や自宅の避難所を確認し、院内で共有する必要があると考えました。

